

細江町

地形概況

都田川が西流して引佐細江に注ぎ自然堤防を伴う三角州性低地を発達させた。南部は三方原台地で谷頭侵食の延長が台地面の浅い谷となる。北部は尉ヶ峰山地で段丘や小扇状地・谷底低地で浜名湖に面している。寸座半島も平坦地をもつ。

地質概況

都田川北側の山地は秩父帯の黒色頁岩・砂岩・輝緑凝灰岩などからなる地層が分布し、石灰岩をはさむ。南部の三方原台地は東鴨江累層をおおう河成砂礫層からなり、表面は褐色土である。沖積低地は泥質層からなり、埋め立て造成も進んでいる。

気象概況

年平均気温は推定 15.3°Cと県内でも高く、冬は暖かく真冬日はほとんどない。日照時間は県内でも比較的長く、冬の晴天日が続き安定する。年平均降水量は 2,094mm(小野)と県平均より約 15%程度少なく、春から夏にかけて雨が多い。

災害事例 地震

- 1944年12月7日(昭和19年) 東南海地震 M=7.9
県中・西部に被害があった。当地では中川で全壊5戸、半壊5戸、気賀で全壊6戸、半壊9戸の被害があった。
- 1854年12月23日(安政元年) 安政東海地震 M=8.4
全県下で被害を生じた。当地では片町・本町・山中辺などは格別のことはなかった。気賀御関所、石垣・御屋敷・土塀が崩れ、清水では3~4戸倒れた。震度は気賀で5程度である。
- 1707年10月28日(宝永4年) 宝永地震 M=8.4
全県下で被害を生じた。気賀の関所御門かたむき、柵塀は残らず倒れ、石垣も破損した。祝田村も強くゆれ、道路が通行できなくなった所もある。震度は気賀で5である。

災害事例 津波

- 1854年12月23日(安政元年) 安政東海地震津波
全県沿岸に津波被害があった。気賀では田畑2,800石程の地が塩水につかった。津波の高さは気賀で1~1.5mである。
- 1707年10月28日(宝永4年) 宝永地震津波
全県沿岸で被害があった。気賀では本高2,600石余の土地が、津波で田畑1,700石余荒地になって、長く潮が引かなかった。津波の高さは5~6mと推定されている。

災害事例 高潮

- 1979年10月19日(昭和54年) 台風20号
浜名湖の高潮により、床上浸水3戸、床下浸水16戸の被害があった。
- 1975年8月23日(昭和50年) 台風6号

浜名湖に生じた高潮で被害があった。

- 1959年9月26日(昭和34年)伊勢湾(15号)台風
浜名湖に高潮が生じ、館山寺線伊目の鉄橋が流失、三ヶ日と細江で60余戸が床下浸水の被害を受けた。
- 1953年9月25日(昭和28年)台風13号
気賀で半壊15戸、流失2戸、床上浸水203戸、床下浸水398戸に及んだ。
- 1935年8月9日(昭和10年)
浜名湖は高潮により田・畑・養魚池の浸水、道路の欠潰などが起こり、沿岸に多大の被害を与えた。引佐郡で床上浸水24戸、床下浸水158戸の被害があった。

災害事例 台風

- 1974年7月7日(昭和49年)台風8号(七夕豪雨)
全県下に被害があったが、当地でも死者1人、負傷者5人、全壊21戸、半壊31戸、流失5戸、床上浸水681戸、床下浸水1,678戸、流失田畑124.87ha、冠水田畑759.15ha、決壊道路506箇所、橋梁50箇所、堤防20箇所、山崩915箇所の被害があった。
- 1971年8月30日(昭和46年)台風23号
全県下に風水害があり、当地では床上浸水89戸、床下浸水634戸、田畑冠水1,485ha、道路決壊22箇所、山(崖)崩41箇所の被害があった。
- 1953年9月25日(昭和28年)
全県下特に西部で風水害があった。気賀の被害は半壊15戸、流失2戸、床上浸水203戸、床下浸水398戸などである。
- 1911年8月4日(明治44年)
都田川が大洪水となり、落合橋で水高5m余となり、祝田橋・瀬戸橋は流失し、堤防5箇所が決壊した。